授業研究会〈球技部会〉

○授業者自評

【小野（菊陽町立菊陽中学校】

サッカーの授業は全体で１２時間、今回は８時間目授業でした。これまでの授業の内容は、オリエンテーション以降、スキルウォーミングアップ、活動１、活動２、ゲームにつなげるという形式を変えずに行ってきました。各時間の授業で変えたのは、発問や意識させたい内容のところで、シュートを打つときにキーパーを置かない形でこれまで活動しています。

学習言葉に関しては、毎時間教師側が提示するのではなく、子どもたちの言葉の中から「赤の言葉」（学習言葉）を引き出し、共有する形で授業を進めてきました。また、発問の仕方に関しては、教師側が答えを出す言葉かけではなく、発問から子どもたちに考えさせられるように意識しています。教師からの言葉を聞いて動きながら「赤の言葉」をパッと思い出せる、意識できるような姿を目指しました。

今回の授業は、「実践的サポート」や「空間に走り込む」ことに重点を置いた内容でした。「攻撃側を決めた中で、優先させるのはどこか」ということで「観る」「タイミング」という学習言葉を用いて授業を行いました。「タイミング」については前回の授業でも押さえています。

デモンストレーションが長いかなとは思いましたが、全体的な運動量はあったと思います。また、普段、発言しない生徒が発言できたこと、支援を要する生徒たちも生き生きと活動していて楽しくできていたのではないかと思います。

○質疑応答

Ｑ．学習言葉を視点に持ってきて授業をするということで、生徒たち自身の中でその形が定着し、教師がいないところでも、学習言葉を使ってやりとりしていたことに感心しました。学習言葉を使うことで、生徒たちの学びが深まったのではないかと思います。学習言葉は、教師が提示するのではなく、子どもたちから引き出すということでしたが、先生が、意図した言葉ではない言葉が出たり、思っていた言葉と違う言葉が出たりしたときにはどうされましたか。

【小野】

あらかじめ教師側が引き出したい言葉は持っていますが、生徒から出た言葉を否定せずに、限定しながら赤い言葉に持って行きました。あとは、学習カードを工夫することで、引き出したい言葉が出やすいようにしています。

Ｑ．学習言葉を他の単元でも活用していますか。

【小野】

サッカーの前はソフトボールをしていました。ソフトボールの授業では捕球時の肘や膝、その中の姿勢が赤の言葉として、「どのような」姿勢かという部分を「白の言葉」と指定して日頃から話していました。

Ｑ．活動中、生徒らが活発な声出しができていたことがすごかった。フリーマンを固定した意図は何でしょうか。

【小野】

フリーマンは常にサッカー部や経験値の高い生徒にさせました。役割として DF をしなくていいだけでなく、アドバイスをさ

せるなどの役割を与えました。

Ｑ．めあてに対しての場の設定についての質問です。２対２にしては、コートが広いように感じましたが、工夫した点やねらいはありますか。

【小野】

体育の授業づくりをする上で、裏のスペースや幅をとることを考えた場合、サッカー部だと広いと思うかもしれませんが、他の生徒が気づくように広めに設定しました。

Ｑ．単元計画で１時間に一つずつ学習言葉が入っていますが、次回からはチームの課題解決を行っていくと言うことで、９時間目・１０時間目をどのように展開していくのか、また、教師の関わりはどのようにしようと考えていますか。

【小野】

チームの課題については、本時の最後に真ん中の線をなくしたゲームを行ったとき、自由にした方が楽しいし盛り上がったという声が出ました。今回出た課題を作戦として考えさせながら、個人技能や集団技能を高め、リーグ戦につなげていきたいと思っています。

Ｑ．一年生時と三年生時の学習状況について、どのような構想を持っていますか。

【小野】

系統観については、やる内容は三学年ほとんど変わらないが、一年時には技能習得のためのポイントとして、「言葉を知る」「互いにアドバイスを送り合う」ことを目標にしたいと思っています。

二年では、言葉を知った上で「使う」経験を中心に言葉を使っていきます。三年では、掲示物等がない中で、アドバイスや話し合いができるようになることを目標に取り組んでいます。昨年の３年生は、話し合いになると、ホワイトボードがなくても地面に図を描いて話し合うような姿が見られていました。そのような姿を目標に３年間の取り組みを行っています。

Ｑ．生徒の話し合い活動についての質問です。今日の生徒らで高めるためにこれまでやってきたと思いますが、話し合いの仕方に対するスキルの定着はどのようにしましたか。

【小野】

高め合う、積み上げていくということをしていきました。言葉を知る。それをどこで使うかは、まず二人で話し合わせました。水泳等の授業で二人組の活動でお互いにアドバイスし合う活動を行うとしゃべらざるを得ません。そこから、球技などの競技で、複数を交えてみんなで言えるようなスタイルに持って行きました。

【堺（菊陽中】

菊陽中ではキャリア教育を行っていて、ピアサポートなどで話し合いのルール作りをしています。前日までの授業でも、小野先生は「話す人はどこに立つか。」「聞く人はどういう態度をとるか。」を問いかけていました。学校と体育とのつながりを持って取り組んできました。今回の授業でも、小野先生は問いかけを行う、子どもたちは話し合いながら考えを深めていくという活動になったと思います。

Ｑ.「教師は褒めたつもりでも、子どもは褒

められたと感じていない」という話しが小体研の中で話題になった。子どもたちが実感できるときには具体的に褒められたときで、そのときこそが子どもの意識の中に残るそうです。今回の学習言葉はめあてに応じた言葉になっていますか。経験上、経験値の高い生徒がしゃべり、他の生徒は黙るという授業になりがちだが、今回はそうならないためにどのような手立てをされましたか。

・指示を出したり、褒めたりする生徒の言葉かけが具体的でとてもわかりやすかったし、言葉かけをされた生徒にもわかりやすく、学習言葉の効果が発揮されていた。また、前時に学習した守備に関する学習言葉を用いて守備に関するアドバイスをする場面が観られ、学習言葉を中心に学習の積み上げがこの時間を見ただけでもわかった。本時でも、シュートは入らなかったが、裏がとれていた仲間の動きを喜んでいた生徒の姿も見られた。さらに、専門ではない生徒も本時のめあてを意識して、何度も首を振って相手を観ようとする姿が見られた。足を使ってボールを扱うサッカーという種目において、ましてや経験の浅い生徒にとって「観る」ということはなかなか難しいことだと思うが、わかりやすく指導するためのポイントは何か。また、ラージゴールを１つ、小さいコーンゴールを２つとして場を設定したいとは何か。

【小野】

ボール、ゴール、相手、味方、スペースと観るべき対象がたくさんある中で、本時はこれにしようと観る対象を絞り込んで、さらに具体的に確認しながら落とし込んでいった。本日は「相手を観ることでスペースを見つけることができる」というように、相手を観ることが始まりだとして落とし込んだ。

【髙橋（球技部会チーフ）】

単純にフルサイズのピッチを二つ割りにした場を設定している。片方は「大きなゴールに攻める・守る」という状況。もう一方は「センターラインまでボールを運ぶ・運ばせない」といった状況。この２つを合わせるとフルサイズでのサッカーが自然とできあがるというコンセプトです。さらに、初回から場の設定を変えないことで、教師の説明や準備の時間を減らすことに成功したと考えています。つまり、生徒の活動時間を保証することであり、運動量の確保、活動内容を変えずに質の高めることができたのではないかと思う。

〇指導助言

【久米野指導主事】

これまで菊池郡市では、思考力・判断力・表現力等を育む授業作りを進めてこられました。生徒同士の関わり、運動量の確保、スキルウォーミングアップに取り組み、たくさんの視点を持って参観する先生方も多くの収穫があったと思います。小野先生の授業を見ていてわかったと思いますが、小野先生と生徒との信頼関係がしっかりしていて、とても素晴らしい授業でした。また、運動量も十分ありました。１単位時間の内容をパターン化する効果はありました。スキルウォーミングアップについては、菊池郡市全体で取り組まれており、定着してきております。本時の学習では、内容が良く

整理されていて、とてもわかりやすかったです。

スペースに走り込むという動きは難しいです。模範で示したときに、気がついた人も多いと思いますが、先生がやって見せて、説明を聞いて、生徒らも具体的にイメージすることができました。学習言葉と教師の言葉かけ、先生の体育への姿勢で言語活動は活発になっていました。生徒らが身につけた知識を活用することは、思考力アップにつながります。言語活動は学びを深めるということがよくわかったと思います。教え合いや相互評価を行うことはコミュニケーション能力を高めることにも非常に効果的で、授業の中で何度も励ましや賞賛の言葉が見受けられました。その意味でも、今回の授業は参考になる提案だったと思います。言語活動の充実に向けて学習言葉を活用するということが思考力・判断力・表現力等の育成につながるということがわかり、今後も学習言葉を活用していくことで、さらなる効果が期待できます。キャリア教育の視点からのアクティブ・ラーニングやカリキュラムマネージメントにもつながります。今回の授業では、小野先生が発問の工夫をされ、それに向けて生徒が活動を行い、振り返りの場面で学習言葉がすっと出てきました。これは前段の活動で生徒らが意識して取り組めていたからだと思います。学習内容の効果、学習言葉の良さを発揮するためには、それらを最大限に発揮できるような課題や解決し甲斐のある課題を与えることが必要です。今回菊池郡市では、先生方の専門性を生かした授業に取り組み、専門外でも使えるような学習言葉を使えるような工夫をされました。今回の研究を是非、持ち帰って活用してもらいたいです。今回の研究が県下に広がり、地域の取り組みが伝わる良い機会でした。子どもたちの心身の育成や将来の生きる力につながる取り組みでした。

授業研究会〈武道部会〉

〇授業者自評

【北田（合志市立西合志南中学校】

剣道ということもあり、イメージをもたせたいと思い、そのためにＩＣＴを活用して映像を見せました。学習言葉については、武道部会で精選をしてきました。学習言葉を生徒から引き出すためにはどのようにすればいいのかを検討しました。模範演技と思っていたが、剣道部がいないため難しいと考え、映像を見せようということで、ＡとＢの比較映像を見せました。スローでやっていく内に言葉が出てきたので、スローにしてみて良かったと思っています。

学習言葉を用いた練習では今日の学習言葉を具体的にどうするかが生徒の口からでていました。一時間の中で、始まったときと終わったときをくらべると良くなった気がしています。子どもたちがきちんと学習言葉を理解し、練習の中で活用できた証拠だと思う。

判定試合にも楽しんで取り組んでいたと思います。これまでも授業の後半ではゲーム感覚の判定試合を毎時間やっていました。次はどうやったら勝てるのか、うまくなるのかと考えることで、思考も高まっていくのではないかと思います。感想では、アドバイスをもらえたことを喜んぶ声もあったし、次回の授業にいかしたいと言っていたので、思考も高まりを感じました。

〇質疑応答

Ｑ．ＩＣＴ活用についてです。映像がすごくわかりやすくて良かった。もともとあったのか撮影されたのか。どんな風に準備したか。

【北田】

事前研のときに影像があった方が良いというアドバイスをもらって作り始めました。菊池郡市の若い先生方であつまってビデオ撮影をしています。悪い例をとって動画編集ソフトでスローに編集しました。

Ｑ．水泳帽子、面付けの工夫と竹刀のテープなどの狙いや工夫について

【北田】

面や防具を着けるのに時間がかかります。本当は面タオルが理想だが面付けだけでい一時間が過ぎることもあります。水泳帽子が全員持っているので衛生的だし時間短縮にもなると思い、使用しました。面ひもはしっかり結んでいればそのまま外してまたつけられるので、時間短縮にもなりました。

竹刀の目印は一足一刀の間合いを意識しています。先生方と話し合い、間合い大事にするため目に見えるものをということで印をつけました。

Ｑ．自分も剣道専門だが、面打ちには小さくと大きくがある。スキルウォーミングアップ、練習での面、小さく打ったが、大きく打つことと両方扱っているのか意図があって小さくしているのか。

【北田】

手と足を合わせるのに小さく打ったほうが合いやすいと思います。スキルウォーミングアップも手をそのまま前にやった方がやりやすいので小さくさせています。面ぬき胴も小さい方が実戦的だしタイミングを合わせやすいので、意図的に小さく

面のみ学習させています。

〇研究協議

【平田（武道部会チーフ）】

・学習言葉について

面抜き胴の学習言葉を何にするか部会で話し合いました。剣道専門の先生方が多いのでいろんな意見が出ました。

実際の応じ技は、相手を引き出して打つことが大事ということがでたが体育の授業の中でそうするのは難しいと思います。打ち方にこだわろうって指導しようということになりました。

最初は「Ｕの字で打とう」という言葉でしたが、技能習得のためだけ言葉でいいのか、「Ｕの字」だと、抜き胴ではなく胴うちではないのか、という意見が出て変わりました。

次は「バーンという音を出そう」はどうかという意見が出ました。しかし、思考が広がりすぎたり足の動きに着目しなかったりするのでは、ということでこれもやめました。

やはり抜き胴なのでタイミング、そのためには竹刀の上がり初めを狙おう、体の動かし方では、右足の出し方、ということになった。

【参加者】

・映像について、今日のようにスローモーションにすることでタイミングを確認することができた。

・自分がダンスの授業をした時に、生徒が動きが覚えられず、「自分の前の子のまねをするとわかりやすかった」と言っていた。

・今回の映像も自分の視点や背中からの映像だともっとわかりやすいと思った。

【菊池郡市】

・撮影する角度については色々考え、面にカメラをつけようかとも思ったが、難しかったです。悪い打ち方がどういう風に示すことが難しかったです。私たち剣道経験者はなんとなく打つが、実際にスローにしてみて動き出すタイミングが分かりました。とってみて良かったと思います。

・菊池郡市ではかつて木刀による基本技稽古法も撮ったことがあるが市販されているものもあるのでそれを使うことの方が多かったです。

・今後は、今日のようにタブレットをつかって判定試合の時に視点を与えることなどに使いたいと思います。小手抜き面などの応じ技などでタイミングをつかませるのに使っていきたい。

〇指導助言

【平木指導主事】

素晴らしい授業提案ありがとうございました。今日に至るまでに数回にわたる授業研究会をおこなってきました。感謝申し上げたいと思います。

本日のオリエンテーションでもあったとおり、楽しさと喜びを味わい自主的に取り組む体育の授業づくり、思考力・判断力・表現力を育成する授業づくりについて研究を進めてきました。「１指導過程」と「２言語活動」です。

１について、一時のオリエンテーションの工夫については、武道必修化においてとても大事です。判定試合など、段階的な指

導により初めてでも楽しめる工夫があったと思います。スキルウォーミングアップは、基本技能の定着を目指して考えてありました。今日はスキップ・すり足・手刀での面があり、面は大きい方が良いのかどうかという質問に対して、踏み込みのタイミングのための小さくさせてあるという回答がありました。

２の言語活動について、共同的な学習や教え合いのための学習言葉ですが、たくさんの事前研の中で直前まで考えられています。本時は、“タイミング”と“右足”でしたが、ＩＣＴを使って、子どもたちが如何にして気づくか教え合いのためのキーワードとしての学習言葉だったと思います。

教具資料の活用では、自分の動きが分からない生徒への手立てとしての影像資料があり、子どもたちもわかりやすかったのではないかと思います。映像の角度についてありがたい意見でした。今後も撮影を考えていきたいと思います。今日の映像配付してありますので、活用ください。

最後に、今日に至るまでに３年間を費やし、素晴らしい時間となりました。関係の先生方にお礼申し上げ、まとめの言葉とさせていただきます。